

⑩ 月渡り

沢は昔、月渡りと呼ばれていたそう。河内へおいでになった近衛中将隆澄さまが、帰りに沢でお泊りになって、月を見て天子の恩を偲び、付き添いの人に和歌をよみあげられた。

「月渡りの月見る度に思うかな 沢のみやこの光あまねし」と。

また、この近辺に鉱物がかならずあると信じて、九条道家さまがこられたが、なかなか見つからなかった。都を思い、

「さてもよき月渡りの月いま思

う 都の月は雲はれて来し」

とよまれたんやと。

また、上沢のことを江戸時代には日方村というたが、今でも日方という人がいる。河内から見ると、沢は



日当たりがよくて、あったかいからや。

上沢のお宮さんの神様は、もとは河内のお宮さんの神様もかねていらっしやったので、河内に来たり沢に行ったりしていなさったんやと。

ところがある時、夢のお告げで、

「わしは、もともと日方が好きじゃ。今後は決して陰には行かぬ。」

と言われたそう。それから沢だけの神様になられた。

そして、よその神様は毎年十月には出雲参りをされるのに、沢の神様だけはお参りなさらないらしい。

⑪ 善祐寺の阿弥陀如来さま

沢の善祐寺は、一乗谷の朝倉氏と縁のある古いお寺での。初代敏景の子の道景がたてたんやと。